# トウニン

***生薬の性状の項を次のように改める.***

**生薬の性状**　本品は偏圧した左右不均等な卵円形を呈し，長さ 1.2～2cm，幅 0.6～1.2cm，厚さ 0.3～0.7cm である．一端はややとがり，他の一端は丸みを帯びてここに合点がある．種皮は赤褐色～淡褐色で，外面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があって，粉をふいたようである．また，合点から多数の維管束が途中あまり分岐することなく種皮を縦走し，その部分はくぼんで縦じわとなっている．温水に入れて軟化するとき，種皮及び白色半透明の薄い胚乳は子葉からたやすく剥がれ，子葉は白色である．

本品はほとんどにおいがなく，味はわずかに苦く，油様である．

種皮の表面を鏡検〈*5.01*〉するとき，維管束による隆起部上の石細胞の形状は部位によりかなりの相違があり，多角形，長多角形又は鈍三角形で，その細胞壁はおおむね均等に厚く，側面視では方形，長方形又は鈍三角形を呈する．